

NIME04/MAF2004開催報告

長嶋洋一 (SUAC/ASL)

概要 : 2004年6月上旬に、SUAC(静岡文化芸術大学)を会場として開催した国際会議NIME04(音楽/芸術表現のための新インターフェース)と、同時期にSUACで開催したメディアアートフェスティバル(MAF2004)について、報告するとともに今後のトレンドについて展望した。

Report of NIME04 / MAF2004

Yoichi Nagashima (*nagasm@computer.org*)

Abstracts : This is a report of (1) NIME04 (International Conference on New Interfaces for Musical Expression) and (2) MAF2004 (Media Art Festival) held at SUAC (Shizuoka University of Art and Culture) in June 2004. NIME04 was able to get the useful result by the specialist exceeding 220 persons who participated from overseas and domestic. RENCON Workshop held as one of the sessions could also be successful.

1. はじめに

国際会議NIME04 (International Conference on New Interfaces for Musical Expression)

「音楽/芸術表現のための新インターフェース」は、コンピュータ音楽やメディアアートの領域で、(1)情報科学と情報通信技術、(2)システムと人間の掛け橋となるHCI、(3)人間の感性や表現などの芸術性、の三者の融合/展開をテーマとしている。本稿では、2004年6月3-5日に、静岡県浜松市の静岡文化芸術大学(SUAC)を会場として、日本で初めて開催したNIME04と、併せて開催した、2001年からSUACで開催しているメディアアートフェスティバル(MAF2004)について報告する。

2. NIME04開催への経緯

NIMEは、国際学会ACMが開催したCHI2001の中のワークショップとしてスタートした若い国際会議である。アイルランド・ダブリンの欧州メディア研究所でNIME02を開催、カナダ・モントリオールのMcGill大学でNIME03を成功させ、これを受けて日本で初めてのNIME開催により、世界中の関連する研究者・専門家が日本に集い、国内の関連した研究者・専門家・機関・企業などとも交流して、この学際研究・文化芸術の新しい発展に寄与することを目指した。

制度上、SUACには国際会議を主催するシステ

については省略する。NIME04の公式ホームページ[2]にあるように、最終的には以下の後援・協賛等を得た。

外務省
文化庁
国際交流基金
情報処理学会
電子情報通信学会
芸術科学会
日本音楽知覚認知学会
日本コンピュータ音楽協会
情報処理学会 音楽情報科学研究会
静岡大学情報学部
浜松音楽情報科学研究会
アクトシティ浜松運営財団
栢森情報科学振興財団
花王芸術・科学財団
国際コミュニケーション基金
ローランド芸術文化振興財団/ローランド株式会社
ヤマハ株式会社
株式会社河合楽器製作所

3. NIME04の概要

NIME04では後述のように、テーマに関連した領域の世界先端の研究発表、デモンストレーション発表、パフォーマンス、システム展示等を連日行った。基調講演には、モーグシンセサイザーの生みの親である R. Moog博士(“How do performers interact with their instruments”),そして世界を舞台に活躍するメディアアーティストの岩井俊雄氏(“Images, music and interactivity - the trace of media

非営利会議であるNIME04の開催経費は会議参加者の参加費、研究/芸術振興財団等からの助成金、および協賛企業からの助成(寄付)等により運営された。会議ののべ参加者は221人で、その内訳は

事前登録参加者	144人
早期一般	40人
通常一般	21人
早期学生	21人
通常学生	12人
ゲスト(招待)	50人
当日登録参加者	77人
通常全日	15人
学生全日	8人
通常一日	29人
学生一日	3人
ゲスト(招待)	22人

となった。海外から参加した日本人、国内から参加した外国人も多数いたので概略であるが、外国人と日本人の比率はおおよそ半々であった。以下はその一部の風景である。

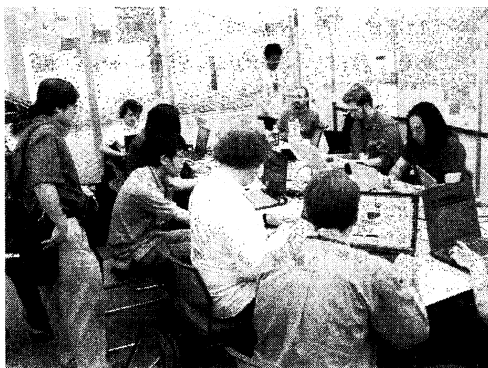


Fig.1 受付のネットコーナーに群がる参加者



Fig.2 レセプションの風景



Fig.3 基調講演のMoog博士とHMACSの高橋由美子氏

NIME04の開催期間を中に包みこむ形で、SUACはMAF2004を開催した[4]。一般に無料公開されているMAF2004のプログラムはこれまでSUACが刊行してきたが、今回はNIME04/MAF2004の合体したプログラムとして共同刊行した。初めての試みとして、全体を日本語版と英語版の背中合わせ印刷(表紙が両側にあり、ひっくり返して読む)とし、HMACS関係者の努力によって、NIME04の全論文のアブストラクト日本語翻訳も掲載した。このプログラムの注文/入手方法へのリンクもNIME04のフォトレポートWebページ[3]にある。

4. NIME04研究発表/ポスター/デモセッション

NIME04では会議そのものにテーマの共通性があり、ICMCほどの規模に至らないために、ペーパーセッションに個々のタイトルを付けて分類せずにシングルトラックの研究発表セッションはオムニバスとした。唯一のテーマセッションはRENCONであり、この成果報告はWebで公開されている[5]。





Fig. 5 ポスターセッションの一風景

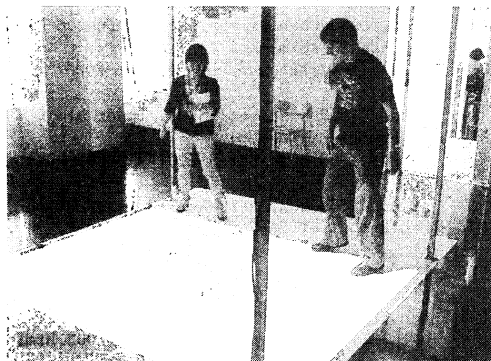


Fig. 6 デモセッションの一風景

●Saturday 5th (day-3) Concert 2

1. Hisashi Okamoto : "The first sailing with Limber-Row"
2. Linda Kaastra, Sachiyo Takahashi : "You and Me"
3. Vola : "Chase"
4. Yuriko Fujii : "Orga[ni]sm ~ formula for orgasm between human and technology, presented with HairDNA, Sonic Skin, Samsara ~"
5. Robert Wechsler, Peter Dowling, Frieder Weiss : "ice9"

●Saturday 5th (day-3) NIME04 Club Concert

1. Sinan Bokesoy, Stefan Tiedje : "Ruins A39"
2. Jordan Wynnchuk : "Dr. Dentist and the Oral Satisfactors"
3. Ge Wang and Perry Cook : "On-the-fly Counterpoint"

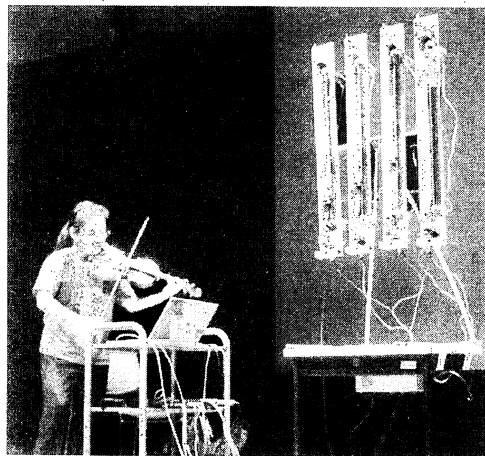


Fig. 7 リハ中の木村まり氏と"GuitarBot"

5. NIME04コンサート/インスタレーション

NIME04の初日6月3日の晩には基調講演が行われ、その冒頭では、東野珠実の笙/ブレスセンサと輝体インスタレーション「霧夜」を用いたWelcomeパフォーマンスを行った。

●Thursday 3rd (day-1)

Welcome Performance

Yoichi Nagashima + Tamami Tono : "MOYA III"

Keynote : Toshio Iwai

"Images, music and interactivity - the trace of media art"

Keynote : Robert A. Moog

"How do performers interact with their instruments?"

NIME04の2日目、3日目の晩には、SUAC講堂ホールでの2つのコンサート、さらに浜松市内のクラブに会場を移してのクラブコンサートを行った。NIMEではDJ/VJ関連の発表も多く、初めてのクラブコンサートは好評だった。その後23-25時には引き続きフェアウェルライブも開催した。

●Friday 4th (day-2) Concert 1

1. Jeffrey Stolet : "Tokyo Lick"
2. Clay Chaplin : "Stupid Thing' Improvisation"
3. Ajay Kapur & Phil Davidson : "Saraswati's Electro-Magic"
4. Kanta Horio : "particle"
5. Mari Kimura : "GuitarBotana"

Fig. 7の木村まり氏の作品は、NYのLEMURのギターボットという音楽演奏ロボット(一種のインスタレーション)との共演である。NIME04のコンサートセッションの応募には、古典的なコンサートホールでの公演の形式というより、(1)クラブコンサートとしてライブを、(2)来場者体験型のインスタレーションとして、という作品も多く、最終的に初めてのクラブコンサートを実現し、あと1作品(Garth Paine : "MAP2")のインスタレーションを展示した。この他に、ポスターやデモセッションでもインスタレーション作品の展示がいくつもあり、NIME04の新しい傾向として、(サウンド)インスタレーションという大きな流れが鮮明になった。これはNIME05にも継承される模様である[6]。

6. MAF2004

SUACでは2001年から4年連続で、メディアアートフェスティバルを開催している[7-12]。5回目となったMAF2004はNIME04を含む形で開催し、例年同様の「インスタレーション・ギャラリー」「ムービーシアター」(一般公募)等に加えて、NIME04で来日した機会を生かして、海外を舞台に活躍するアーティストとして、木村まり、東野珠実、後藤英の各氏を招いた公開レクチャーコンサートを行い、好評を得た[4]。

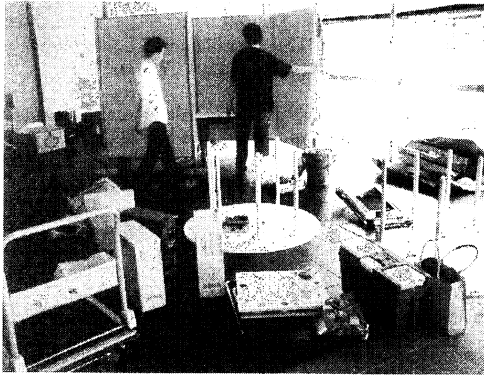


Fig. 8 インスタレーションギャラリー設置風景

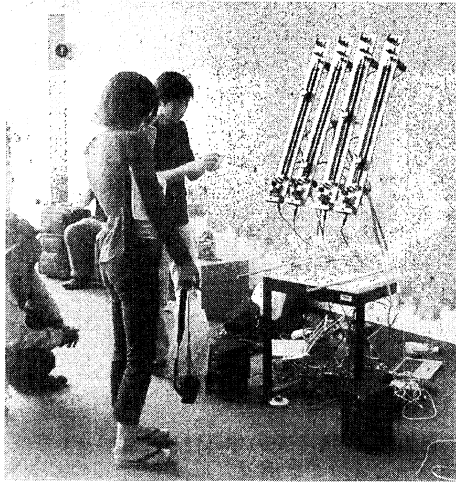


Fig. 9 LEMURのギターボット展示風景

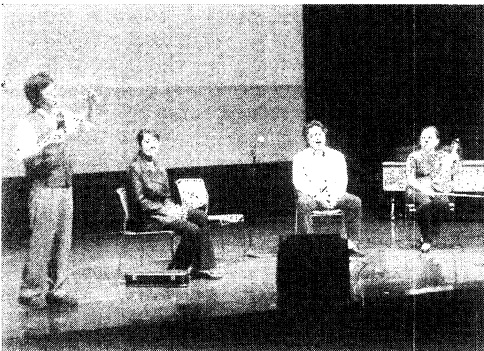


Fig. 10 公開レクチャーコンサートのトーク風景

7. おわりに

NIME04は、NIMEとして過去最多の論文応募・作品応募により採択倍率も最高となり、世界先端の研究が集結した会議として成功した。次回NIME05は2005年5月下旬に、バンクーバーのUBCで開催さ

れる予定[6]であり、NIME04はこの分野での交流とともに発展させつつ次回に引き継ぐ、という大役を果たすことができた。

HMACSの高橋由美子氏をはじめ地元浜松の音楽関係者各位、講演/協賛いただいた関係各位、そして参加/協力いただいた皆様の全てにあらためて感謝の意を表したい。

参考文献/リンク

- [1] 長嶋洋一：NIME03参加報告、情報処理学会研究報告 Vol. 2003, No. 111, pp. 141-148
- [2] NIME04, <http://suac.net/NIME/>
- [3] NIME04 Photo Report Page, <http://suac.net/NIME/report04/index.html>
- [4] MAF2004, <http://1106.suac.net/MAF2004/index.html>
- [5] 第4回Renconワークショップ, <http://shouchan.ei.tuat.ac.jp/~rencon/NIME04/index-j.shtml>
- [6] NIME05, <http://hct.ece.ubc.ca/nime/2005/>
- [7] MAF2001, <http://1106.suac.net/SS2001/index.html>
- [8] Photo Report of MAF2001, <http://1106.suac.net/SS2001/MAF2001.html>
- [9] MAF2002, <http://1106.suac.net/MAF2002/index.html>
- [10] Photo Report of MAF2002, <http://1106.suac.net/MAF2002/MAF2002.html>
- [11] MAF2003, <http://1106.suac.net/MAF2003/index.html>
- [12] Photo Report of MAF2001, <http://1106.suac.net/MAF2003/MAF2003.html>



Fig. 11 公開レクチャーコンサートのリハ風景(東野珠実+木村まり+長嶋洋一の即興セッション)